

特別養護老人ホーム「白寿苑」での体験を通して

学 校 名	氏 名
活動場所 (○か□で囲む)	寿考館 (1階 2階 <u>3階</u>)
<p>【活動内容】 主なものを箇条書きで</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーション ・ フロアの清掃 ・ 食器洗い ・ 食事の手伝い ・ 	
<p>【体験を通して感じたこと】</p> <p>体験させていただく前、私は大学在学中に行った介護等体験を思い出していました。そのときはデイサービスを行う施設だったので、ほとんどの方と会話でコミュニケーションがとれ、それぞれの活動を一緒にさせて頂く形でした。</p> <p>今回、利用者さんの日常生活上の支援を手伝わせて頂きました。活動する中で、様々な場面で利用者さんや介護士の健康を守るために、殺菌することや清潔に保つことが徹底されていると感じました。特別養護老人ホームということで、ほとんどを寝て過ごす方や体を動かすことができない方、会話をすることが難しい方なども入居されていて、初めはどのようにコミュニケーションをとろうかと不安に思いました。利用者さんと直接触れる形で体験させて頂いた事は、入浴後の利用者さんの頭と足を乾かすことと、食事の手伝いです。つたない支援にも関わらず、利用者さんにお礼を言われ、嬉しく思いました。特に食事の場面では、二日間同じ方と関わらせて頂き、初めはこれでよいのかと不安に思いましたが、職員の方の声のかけ方などを見て、一日目よりも二日目の方が利用者さんの思いも聴き、楽しく食事を手伝うことができたと思います。二日目のレクリエーションでは、風船バレーと歌、リコーダー演奏を行いました。歌とリコーダーでは合わせて手拍子して一緒に歌って下さる方もいて、私自身も楽しく過ごさせて頂きました。この体験で、言葉や行動が伴わなくても、楽しいことや音楽などを通して、コミュニケーションをとることができたと感じました。</p> <p>また、職員の方々を見ていて、職員同士の仲が良く小さなことでもしっかりと連携が取れていて、忙しい中でもとても明るく仕事されている印象をもちました。利用者さんもここはいいところだとお話して下さる方もいて、やはり表情や言葉がけは相手に伝わるものがあるのだと思いました。教育の現場も同様に人と人とが関わる場所なので、毎日の心がけを大切に、今回の貴重な体験や伺った話を今後に活かしていきたいです。</p>	

【平成29年度 犬山市初任者研修 社会貢献活動体験研修】

特別養護老人ホーム「白寿苑」での体験を通して

学 校 名		氏 名	
活動場所 (○か□で囲む)	寿考館 (1階 2階 3階)		
<p>【活動内容】 主なものを箇条書きで</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者と工作やお話 ・清掃 (モップがけ、掃除機) ・食事の準備、片付け ・移動の付き添い 			
<p>【体験を通して感じたこと】</p> <p>近くに行くと「あっちいけ。」と手で払う仕草をよくするおばあちゃんに、最後に握手をしてさよならを言うと「次いつ来るの？」と何度も聞かれ「また来るね。」と伝えるのが辛かった。研修に行く前は、痴呆も進んで話をしても通じない方や寝たきりの方ばかりが入居していると勝手に思っていました。歩ける方、杖や車椅子を使っている方、よくお話をされる方、歌が好きな方、新聞をいつも読んでいる方、食事の片付けや洗濯物を畳むなど手伝いができる方、子どもの様に「いや。」や「いらない。」とわがまま言ったり、水戸黄門が始まるのを楽しみにしていたり、それぞれ個性があって自分ができることをしながら生活をされていることを知りました。川柳、習字、体操や音楽レクなど様々な活動や季節ごとにイベントもあり、室内には折り紙や写真で工夫された掲示物や花が飾られていたり、職員は入居者が快適に過ごせるよう環境を整えたり、コミュニケーションを取ったりされていて、それぞれの介護段階に応じて一人ひとりとしっかり向き合うことがとても大切だと感じました。</p> <p>職員の方から、ここでは死を見送る別れがあって、何回あっても慣れることはなく、未来がある子どもを相手にする教師の仕事と大きく違う点だと話をされたことがとても印象に残っています。2日間しかいなかった私でもさよならの別れが辛かったのに、多くの時間を過ごし多くの思いがある職員の方の気持ちを考えただけでも辛くなります。90歳を超えても元気な入居者と話をしたり、レクに参加したり、一緒に笑ったり、この2日間たくさん元気をもらいました。食事やお風呂、トイレの介助などの体力のいる大変な仕事ですが、職員のたくさんの思いやりがあり笑顔のあふれる温かい場所だなと感じました。</p> <p>この研修を通して、思いやりの心や温かい雰囲気の中で過ごすことの心地よさを感じることができました。学校でも子ども一人ひとりの居場所があり、思いやりのある温かい学級にしていきたいと強く思いました。今回、お忙しい中、研修を受け入れてくださり貴重な体験をさせて下さった白寿苑の皆様には感謝致します。ありがとうございました。</p>			

特別養護老人ホーム「白寿苑」での体験を通して

学 校 名	氏 名
活動場所 (○か□で囲む)	寿考館 (1階 <input checked="" type="radio"/> 2階 3階)
<p>【活動内容】主なものを箇条書きで</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者とお話 ・食事の準備, 介助 ・レクリエーション ・利用者と体操 ・洗い物, 洗濯物たたみ 	
<p>【体験を通して感じたこと】</p> <p>1日目は, 担当した利用者のなかに, 会話をしたり, 一緒に活動をしたりできる方がおらず, 最初はどうか戸惑ってしまいました。しかし, 時間が経つにつれ, その中でも, 口を動かしたり手を動かしたりして何かを伝えようとしていることに気が付きました。私には, それが何か理解することは困難でしたが, スタッフの方々はそのから利用者の気持ちを感じ取っていてすごいなと思いました。また, 利用者のご家族と話をする機会もありました。突然, 旦那さんが歩けなくなってしまい, 一人では面倒が看られないので白寿苑に入所したということでした。なかなか毎日には会いには来られないけれど, と話してくださいました。それぞれいろいろな事情があるのだと思いました。</p> <p>2日目は会話の好きな利用者があり, その方と出身地の話や孫の話をしました。また, 「ここにいると家に一人であるより, 友達と話ができるから楽しいわ。」と話してくださいました。私は, 確かに家に一人であるより, 白寿苑で皆と過ごした方が楽しいだろうと思って話を聞いていました。しかし, その後, スタッフの方とその話をしていたときに, 「本当はそんなこと思っていないと思うよ。自分にそう言い聞かせているところがあると思う。」と言われ, 私は全然利用者の気持ちが分かっていなかったと思いました。楽しそうにしているも, その奥に隠された気持ちがあるのだと改めて思いました。利用者の気持ちを考えながら, 利用者から目を離さずたくさんの仕事をされているスタッフの皆さんと過ごし, 私も接する相手は子どもですが, 見習いたいと思うところがたくさんありました。</p> <p>2日間, 白寿苑で体験をして, スタッフの皆さんは, 利用者一人一人にあった対応をされていることが分かりました。言葉がなくても, 何を考えているかを察する力も必要だと思いました。私も2日間で学んだ, 個別に対応することや人の気持ちを察することを生かして子どもたちと接していきたいと思います。</p>	

特別養護老人ホーム「白寿苑」での体験を通して

学 校 名		氏 名	
活動場所 (○か□で囲む)	寿考館 (1階	2階	3階)
<p>【活動内容】 主なものを箇条書きで</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の方とコミュニケーション ・食事の補助 ・お茶や食事の準備・配膳 ・シーツの取替え ・体操の補助 			
<p>【体験を通して感じたこと】</p> <p>今回初めて特別養護老人ホームに訪れてみて、予想以上に介護が必要な方が多いと感じた。私が体験したフロアでは、3分の2以上の方が車いすで生活しており、満足に歩くこともできない状況であることに衝撃を受けた。</p> <p>実際に体験をしてみて、職員の方が本当にきめ細やかに対応していることに驚いた。食器一つにしても、どれが誰の物なのかということ覚えており、利用者の方が満足してサービスを受けられるようにしていた。人によって声かけの仕方を変えたり、細かな様子の変化を観察していたりしていたのがとても印象的であった。また、一人で担当する利用者の人数も少なくないにも関わらず、これまでの様子や性格、趣向に至るまでの情報を把握しており、それらに合わせて支援を変えていることが本当にすごいと思った。まさに個に応じた支援を行っていた。学校現場においても「個に応じた指導」といわれているが、現在の自分ではなかなか個人に応じて指導や支援をあまり変えられず、どうしても同一步調になりがちであった。今回の体験で職種は違うけれど、個人に合わせて支援している現場を見させていただいて、とても勉強になった。9月から児童が再び登校してきて学校生活が始まるので、一人一人の児童を再度見直し、わずかでもいいので現在よりも個に応じた指導ができるようにしていきたい。</p> <p>利用者の方と接してみて、多くの方がコミュニケーションが足りていないと感じた。職員の方に多くの方が認知症の症状が出ていると教えていただくと同時に、利用者の方とゆっくりと話をする時間がなくて困っているという話も聞いた。私自身もたくさんの方と話をしてみて、話したがっている人が多いと伝わってきた。もっと他の人とコミュニケーションを取ることができていれば、認知症も進行しないと思う。現在、親族や地域にたくさんの高齢者の方がみえる。今後はそのような高齢者の方ともこれまで以上に積極的なコミュニケーションを取ることを心がけて、高齢者の方を大切に生活していきたい。</p> <p>ご多用の中、2日間にわたり貴重な体験とご指導をしていただき、本当に感謝している。この体験を生かして教師として更なる成長をしていこうと思う。</p>			

【平成29年度 犬山市初任者研修 社会貢献活動体験研修】

特別養護老人ホーム「白寿苑」での体験を通して

学 校 名		氏 名	
活動場所 (○か□で囲む)	寿考館 (<input checked="" type="checkbox"/> 1階 <input type="checkbox"/> 2階 <input type="checkbox"/> 3階)		
<p>【活動内容】 主なものを箇条書きで</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守り (利用者の方々とのコミュニケーション) ・食事や水分補給の介助 ・洗濯物たたみ、食器洗い、フロアの掃除 ・衣服の裁断 ・レクリエーション、体操、歌唱 			
<p>【体験を通して感じたこと】</p> <p>私は特別養護老人ホームの1階で体験させていただきました。利用者の方々を大切にする、あったかい雰囲気が施設全体にあふれていました。このあったかい雰囲気は、職員の方々のあったかい言葉がけや、表情、介助、行動の端々からにじみ出ているのだと感じました。</p> <p>白寿苑での体験で学んだことは主に3つあります。言葉に頼らないコミュニケーションの大切さ、待つこと・根気強さの大切さ、一人一人に応じたサービスの大切さです。</p> <p>一つ目の言葉に頼らないコミュニケーションとは、表情や口や視線の動きを読み取り、相手の伝えたいことを感じ取って、応答することだと思いました。利用者の方に食事の介助をさせていただく際、最初はどのくらいの量をどのタイミングで行うとよいのかわかりませんでした。職員の方と利用者の方のコミュニケーションを見ていると、職員の方は言葉での声かけとスプーンで口を刺激すること、利用者の方は口の動きで伝えているとわかりました。</p> <p>二つ目の待つこと・根気強さの大切さは、自分のできることは自分でやるために、手伝うのではなく、見守ることだと思います。車椅子での移動では、ゆっくりでも利用者の方自身で行える方は行っていました。やらなくなったことは、できなくなってしまう。だからできることは積極的に利用者自身が行っているのだと学びました。教員として、児童の自立をもどかしくても見守ることを大切にしていきます。</p> <p>三つ目の一人一人に応じたサービスは、相手の性格やできることをしっかり把握し、本当に相手のためになることは何かを考え手を差し伸べるかどうかを考えることだと思います。今後、教員生活を送るにあたり、児童がどんな性格なのか、できない理由は何なのか、甘えはないかなど観察し、一人一人に応じた対応をしていきます。</p> <p>最後になりましたが、2日間という短い間でしたが、貴重な体験をさせていただいた白寿苑の職員の皆様、ご利用者の皆様に改めて感謝申し上げます。</p>			

【平成29年度 犬山市初任者研修 社会貢献活動体験研修】

特別養護老人ホーム「白寿苑」での体験を通して

学 校 名		氏 名	
活動場所 (○か□で囲む)	寿考館 (<input checked="" type="checkbox"/> 1階 2階 3階)		
<p>【活動内容】 主なものを箇条書きで</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者の方とのコミュニケーション ・食事介助 ・レクリエーション (風船バレー、脳トレなど) ・掃除 ・洗濯 			
<p>【体験を通して感じたこと】</p> <p>二日間の特別養護老人ホーム「白寿苑」での研修を終えて、一番に感じたことは、“生きがい”ってなんだろう、“生きる”ってなんだろうという疑問だった。私自身、学生時代に高浜市で一週間の介護実習を行っているが、その時の感覚と全く違った。違う点でいえば、入居しているかどうかという点で学生の時の実習先はデイサービスであった。実習で行った内容も、掃除、洗濯、食事介助、レクリエーション、コミュニケーションと特別変わったことをしたわけではない。実習中に入居者の方と会話をしている時、何度も同じ会話を繰り返していても、笑顔が絶えなかったり、「ありがとう」と感謝されたり、そんな時間を過ごしている中でふと考えてしまった。</p> <p>研修が終わり、自宅で考えていて一つの答えにたどり着いた。それは一日、一日がその人の人生そのものであり、リセットされていくのだろうという結論である。つまり、何度同じ会話をしても、その会話で笑顔になったり、楽しいという思いをしていただけたら、その方にとってとても有意義な時間になるということ。まさに“今”を生きる、“今”を楽しむことがいかに大切かを学んだ実習であった。私たちは会話の内容を忘れたり、何度も同じ会話を繰り返したりはしない。しかし、“今”という時間を楽しむことが何よりも大切であり、“生きる”ということなんだろうと私は感じた。</p> <p>私は今までも日々の何気ない会話を大切にしてきたが、さらに人を敬う気持ち、大切に思う心を持ち続けるとともに、その心を生徒一人一人に育ませていきたい。そして、私の祖父母、父母と過ごせる日々が当たり前ではないことを自覚し、後悔しない関わり方をしていきたい。</p> <p>今回、お忙しい中、研修を受け入れてくださり貴重な体験をさせて下さった白寿苑の皆様には感謝を申し上げます。ありがとうございました。</p>			